

書 系

審 査 評

COVID-19 のせいで生活が変わってきている。暮らし方も働き方も、そして芸術活動も。これまでも透明性の高い県展を推進してきた広島県では、この度悠々と画像審査並びに Web 展示に切り替えた。これを、広島県民の芸術感度を未来へとつなげるエポックとなり得たと後世が評するだろう。書系への応募総数 54 点。70 代 14 点、60 代 10 点、40 代 9 点、50 代 7 点……と、シニアの意欲が高い。入賞では、70 代 9 点、40 代 7 点、60 代 6 点、50 代 5 点、…となり、やはりシニアの精進が著しい。画像での審査では、いくらでも時間が許す限り観ていくことができた。大きさを自由に変えて穴の開くほど追跡できた。一方、スケール感、厚み、重さ、奥行き、速さ、熱量、圧、匂い、音的感覚が捉えにくかった。何より同席する県民の射るような眼差しの中、もう一人の審査員の息づかいを感じる時空こそ、生の真実(=芸術)なのだと夢想した。COVID-19 のせいで、広島県 Web 公募展のおかげで、芸術の本質を再認識できた。そして、生の真実に触れることを渴望する思いを、未来につなげてくれた本事業であった。

(長崎大学教授 鈴木慶子)